

何だろう？ 答えはきっと図書館に

● 問合せ先 市民図書館 (☎③4646)

ふだん生活している中で、疑問に思ったこと、不思議に感じたことはありませんか。みなさんはその疑問をどのように解決していますか。インターネットで検索するのも1つの方法ですが、図書館にある本で調べることによって、その疑問や不思議がより広がったり、より詳しく分かたりすることがあります。市教育委員会が平成28年度から始めた『図書館を使った調べる学習コンクール』を基にして、『役に立つ』図書館についてみなさんも考えてみませんか。



本市開催の『地域コンクール』応募作品

『図書館を使った調べる学習コンクール』とは

■平成28年度は20回目

『図書館を使った調べる学習コンクール』（以下、全国コンクール）が公益財団法人図書館振興財団により開催されています。図書館の利用促進と調べる学習の普及を目的に毎年開催されていて、平成28年度は20回目となります。児童や生徒のほか、一般からも作品を募集しています。

■初めて『地域コンクール』を開催

市も学校教育・生涯学習の学習方法として有効な『図書館を使った調べる学習』を推進します。このため、図書館振興財団が募集している全国コンクールの地域版を開催することにしました。

■『地域コンクール』開催の目的

現在、家読(かよみ)を主として、子どもの読書活動を全市的に推進しています。本の活用方法を知識や考えを本で確認したり、またそこから広げたり、

深めたりすることにも役立てられることを体験してもらいます。そして、自分で本を読み、学ぶ力を育てていくことを目的としています。

■『地域コンクール』開催のメリット

地域コンクールを開催すると、地区予選として扱われまます。このため、地域で入賞した作品を応募数の一定の割合で全国コンクールに推薦することができまます。その際には、一次、二次の審査を免除され、三次審査から加わるようになります。そして全国規模で審査・表彰が行われます。

■『伊万里市民図書館・学校図書館を使った調べる学習コンクール』の概要

- ▽募集期間 平成28年8月1日～9月30日
- ▽応募総数 44点
- ▽表彰式 11月5日・市民図書館
- ▽入賞者・作品名一覧 ※4ページ下段【別表】参照

これからの社会を生き抜くために

■これからの社会は

中央教育審議会（文部科学省に設置された審議会）の答申の中に、アメリカの大学教授の『2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く』という予測が紹介されています。確かに、ここ20年ほどの日本の状況もインターネット・携帯電話の急速な普及やITの発達で、社会や仕事のあり方も変わりました。かつては存在しなかった職業が多く登場

■『調べる学習』で身に付く力

予測困難な時代にあつては、知識を蓄えるだけでなく、みずから課題を見つけ、膨大な情報資料の中から必要な情報を取り出し、解決していかなければなりません。『調べる学習』で身に付く力は、『知的好奇心』、『学ぶことへの意欲』、『図書館の文献・資料を活用す

る力』、『文献を適切に参照する力』、『適切な情報を選択し分析する力』、『文章構成・文章表現力』、『行動力』、『粘り強さ』などが挙げられます。

■伊万里の子どもたちは？

平成27年度に実施した市内の子どもたちへのアンケートや、市民図書館の貸出状況から分かることがあります。小学校低学年で読み物の貸し出しの割合が高いのは当然ですが、高学年、中学生になってもあまり変わりません（別表）。

【別表】市民図書館分類別貸出統計内訳
(平成27年度・単位%)

	知識の本 (実用書)	読み物 (絵本・紙芝居)
0～6歳	10.7	89.3
7～9歳 (小学校低学年)	21.2	78.8
10～12歳 (小学校高学年)	30.7	69.3
13～15歳 (中学生)	30.7	69.3

今、子どもたちに必要な力とは



伊万里市教育長
森 哲也

市では、平成19年度から『うちどく』を始め、平成22年度には『こども読書のまち・いまり』宣言を行うなど、これまで読書による豊かな心の醸成に努めてきました。今年度は、さらに『調べる学習コンクール』（地域コンクール）を開催することで、『生きる力・考える力』を高めることをめざします。

子どもたちは、将来、知識基盤社会という荒波を乗り越えていかなければなりません。自己の目的に応じ、学習の方法を自己決定できる力と情報的的確に獲得することが求められています。図書館を使った調べる学習を通して、学ぶ喜びと学ぶスキルという知的体力が培われることを期待しています。

図書館には、さまざまなジャンルの本があります。知識を増やすための本もたくさんあることを知り、困ったことに遭遇したとき、図書館に解決のヒントを求める習慣も必要です。

『総合学習（ふるさと学習）』から学ぶ

目的は、郷土の偉人である森永太郎の生き方から、『(1)不屈の心、(2)創造的な態度、(3)博愛の精神』を学ばせることとしました。このため、まず、地域の有識者から基本的な講義を受けたあと、図書館の『調べる学習』で学びを深めるとともに、お菓子のワークショップをはじめとするオリジナルソング&ダンスや寸劇による体験的な学習も行いました。これからも、大坪小学校のふるさと学習として、継続的に取り組んでいきたいと考えています。

『調べる学習』はテーマ選びが重要です。各学校の総合的な学習で取り組まれていることは、地域の特色、直接体験、資料の確保、発達段階などの点で、調査研究に必要な条件を備えています。テーマに迷ったら、総合学習の中で取り組んでみるのがおすすめです。



大坪小学校
校長 森永 哲也さん

大坪小学校『森永エンゼルクラブ』を紹介

『森永エンゼルクラブ』とは、平成28年度から始めた本校4年生の総合的な学習の愛称です。

森永製菓株式会社の創業者で『製菓王』と呼ばれた森永太郎が、本市出身であることは有名です。しかし、その経歴や功績までは市民であってもあまり知られていません。実は大坪町は、太郎が幼少期を過ごしたり、練乳工場を作ったりと浅からぬ縁がありました。そこで、少なくとも大坪小学校の子どもたちには、太郎のことを良く知っていてほしいと願って企画したのです。

→森永太郎ありがとう
発表会(12月15日)で
寸劇を披露する児童



『最優秀賞』受賞者にインタビュー

地域コンクールで最優秀賞だった2人に、応募のきっかけや取り組んだ感想などを聞きました。なお、両作品とも、1月11日、全国コンクールにおいて『佳作』に入賞しました。

小学校中学年の部

美しい鳥「クジャク」について

伊万里小学校 3年
いちばんがせしゅうこ
一番ヶ瀬 祥子 さん



夏休みの課題で作りました。クジャクは、とてもきれいな鳥だったのでテーマに選びました。調べていると、久留米市に鳥類センターというのがあり、そこにはクジャクがたくさんいて、飼育体験もできるということを知りました。お母さんに連れて行ってもらい、鳥小屋のフンの掃除をしたり、クジャクの羽を拾ったりしました。本物の鳥の大きさや羽の感触、色などを確かめることができました。クジャクには種類がいろいろありますが、私が一番好きなのは白クジャクです。くちばしだけがピンク色で、ほかは真っ白でとても美しい鳥です。今回作品作りで工夫したところは、見やすいように、写真を入れたところ。感想の部分も特に良くできました。これまで動物にはあまり興味がなかったけど、いろいろ調べているうちに、動物が好きになりました。

〈お母さんから〉クジャクは、木の上で眠ったり、環境の変化でオスがメスになったりと、私も知らないことがたくさんありました。作品作りを通じて、本などで調べて、実際に見て、触れて、体験したことで、どんどん興味が湧いてきて、親子で楽しく学習することができました。

小学校低学年の部

ふしぎなイソギンチャク

山代西小学校 2年
みつたけ
光武 ありさ さん



大好きなイソギンチャクをテーマに選びました。以前、家族で海に行ったとき、岩のところにいるイソギンチャクを見つけました。観察していると、動きがおもしろいなと思い、とても興味があったからです。コンクールでは、本を読んでまとめたたり書いたりするのがとても難しかったけど、先生に教えてもらいながら完成することができました。中でも、イソギンチャクには赤ちゃんが何匹生まれるのかを調べて書いたところが良くできました。また、ウメイソギンチャクには周りに皮がついているということや、イソギンチャクはクラゲの仲間であるということ、それを、石を飛び移ることができるということを知りました。本で調べているうちに、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。

〈先生から〉ありささんは本が好きで良く図書室に来て、自分でコツコツと調べていましたね。司書である私の助言や指導はほとんど必要なかったように思います。ただ、学校には資料となる本が少ないので、ぶっくんからたくさん借りています。これからも市民図書館と連携して、身近なところから一緒に学んでいけたらいいですね。



11月5日市民図書館で開催した表彰式

【別表】『伊万里市民図書館・学校図書館を使った調べる学習コンクール』入賞者・作品名一覧

■小学校 低学年の部 (応募数：5点)

表彰	氏名	学校名・学年	作品名
最優秀賞	光武 ありさ	山代西小・2年	ふしぎなイソギンチャク
佳作	西山 葵	山代西小・2年	いろいろなサメずかん
佳作	松永 蒼空	山代西小・2年	いろいろあるよマツボックリ いろんなくのにの鳥のす
佳作	松本 琉花	山代西小・2年	キュートでかわいい犬・ねこ
特別賞	長野 智喜	大坪小・1年	ぼくのいえのまわりの虫しらべ

■小学校 中学年の部 (応募数：36点)

表彰	氏名	学校名・学年	作品名
最優秀賞	一番ヶ瀬 祥子	伊万里小・3年	美しい鳥「クジャク」について
優秀賞	一番ヶ瀬 堯	伊万里小・3年	洗剤とぼく
優秀賞	横尾 和葉	大坪小・4年	おかしな王様 森永太郎さん
佳作	加賀良 和子 桑原 星空 幸松 千春	滝野小・4年	だれもが関わり合えるように (3人合同制作)
佳作	鎌田 優梨	大坪小・4年	伊万里の偉人 森永太郎

■小学校 高学年の部 (応募数：3点)

表彰	氏名	学校名・学年	作品名
優秀賞	多久島 滉希	東山代小・6年	飛ぶ鳥 飛ばない鳥
優秀賞	諸石 はる 松尾 莉菜	大坪小・5年	虹のひみつ (2人合同制作)

応募された作品を展示しています

- 日時 2月19日(日)まで
- 場所 市民図書館 企画展示室



平成29年度も開催します。参考になりますよ

地域学習会を開催しました

図書館振興財団から自治体に講師を派遣してもらい、調べる学習について学ぶこともできます。12月にはすでに17回地域コンクールを開催している千葉県袖ケ浦市から鴛田道雄さんを招いて、地域学習会を開催しました。

児童・生徒が図書館を使って調べたことをまとめて作品に仕上げるまでには、教員や司書からのアドバイスが必要となります。そのノウハウを袖ケ浦市の実践例を紹介しながら、解説されました。市内の学校から約30人が参加。次回からの応募数増加につながる事が期待されます。



地域学習会(12月9日)の様子



大坪小学校
教諭 松尾 裕美 さん

『子どもも教師も楽しい調べる学習』

公益財団法人図書館振興財団では、教員や図書館の職員などに対して、研修会を開催しています。調べる学習の進め方と楽しさを知り、児童を指導する際のポイントを学びます。昨年開催された研修会には、市から2人が参加しました。

図書館を使った調べる学習体験講座に参加しました。実際にテーマを決めて、調べ、まとめる活動を体験するうちに、調べる学習の楽しさを自身も味わうことができました。また、学級の児童に調べる学習コンクールへの参加を呼びかけました。以前は、調

『調べる学習』の大切さを再認識

べる学習というと、情報リテラシーを身につけ、生きる力、生涯学習につながるものというイメージを持っていました。しかし、今は、それだけでなく、子どもも教師も楽しく、個性を大切にしながら授業となるのではないかと感じています。今後、授業では、課題作り、資料の提供、調べる学習の手順、学習のまとめ方について、大切にしながら取り組んでいきたいと思っています。

『自分で調べて学ぶ楽しみ』を体験



市民図書館
係長 末次 健太郎

調べる学習を支援する立場で、指導者養成のための体験講座に参加しました。自分も授業を受けながら実際に『調べる学習』の体験をしました。それぞれの場面でうまく進めないと、講師やアドバイザーから指導を受けると、少しずつに進むことができず、本で調べていく喜びや楽しさを改めて感じました。

図書館は、本を借りるだけのところ？



市民図書館
館長 杉原 あけみ

幼い子どもたちからは、「なぜ？何で？ どうして？」の言葉がよく聞かれます。好奇心に満ちた子どもたちの素朴な疑問を大切に、興味や関心を育み支持することは、『学ぶことは楽しい』につながり、ひいては意欲を持って生きる人づくりにまで発展していくでしょう。

学校図書館、そして、市民図書館には心を耕す本や癒やす本がたくさんあります。それに加えて課題解決が必要な場面では、図書館の情報資源を使って知識を得ることができることを、小学校低学年の頃から経験して欲しいと願っています。

図書館では『本を読む図書館から、役に立つ図書館へ』と従来のイメージを変えるように取り組んでいるところです。調べる学習はまさにうってつけ。みなさんの学習のサポートがしっかりできるよう、図書館もより充実したサービスに努めていきます。大人の人も図書館で調べて学ぶ体験をしてみませんか。

私がこのときに受けたような指導や手助けを、伊万里の子どもたちにもできるような図書館での支援を増やしていく必要があると感じています。市民図書館の職員はもちろんですが、担任や学校図書館の先生にも研修の機会を設けることで、指導の方法を理解してもらい、各学校での児童・生徒の調べる学習を支えていくことも重要です。

絵本や物語を読んで疑似体験をしたり、感動して一人て涙を流したりするのも読書のおもしろさですが、自分の疑問に対して本を読みながら答えを出したり、より広い知識を得たりすることも、図書館で味わえる楽しみだと思っています。子どもの頃からコンクルの作品を制作することで、『自分で調べて学ぶ楽しみ』を経験して、大人になっても幅広く図書館を使えるようになってほしいですね。